

## 令和二年度 卒業式 式辞

今年は何年になく寒さが厳しかったのですが、最近の日差しには春の気配が感じられ、キャンパスには花や緑から春の息吹がもたらされています。季節は移り変わり、長い寒い冬にも終わりがあり必ず春がやってきます。

本日、ここに岐阜県立国際園芸アカデミーを卒業していく二十一名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

ご列席の保護者の方々にも、心よりお祝いを申しあげます。

また、昨年から続く新型コロナウイルス禍の中で、感染防止のため式そのものの規模縮小と時間短縮のため、来賓のご臨席もご遠慮を頂いております。しかしながら卒業生への祝福の気持ちには変わることなく届いておりますのでこの場をお借りしまして改めて厚く御礼申し上げます。

さて卒業生の皆さんは、二年前に花と緑の知識と技能を身に付けることを目標に、本校に入学してこられました。今、今日のこのよき日を迎えるにあたって、このキャンパスで過ごした様々な思い出が頭の中をよぎっていることと思います。

しかし、新型コロナウイルスという目に見えない敵に大きく影響を受け翻弄されたこの一年でした。

楽しみにしていた海外視察研修に行けず、学園祭もできなかった。そのような状況でありながらも、現状を甘んじて受け入れ最善の努力をしてくれた皆さんに改めて敬意を表しますとともに、お詫びします。

ともに学んだ友人、花と緑があふれ自然の中にあるキャンパスで過ごした日々は、皆さんの人生にとってかけがいのないものです。そのかけがいのない経験や人と人とのつながりがこれからの人生にとって大切な財産となることを願っています。

毎年お話をさせていただきますが、土も種も水も肥料もそれだけでは、

『資源』のままです。資源を『資産』に換えていくために必要なデザインワークともいうべき能力、技能、技術をさらに身に付けて磨いていくことが求められています。その基礎となるべきものは園芸アカデミーでの二年間で「きっかけは」与えられましたので、今後は一つ一つをそれぞれの道で追求していただく下さい。

コロナ禍で私たちは、今まで当たり前前のようにできていたことができないうことが多くなりました。しかしできないならば、やれるようにやり方を変えてみればいい。やめることはいつでも簡単にできます。今までと違うやり方でやってみればいい。必要に迫られると何とか出来てしまうものです。であるなら必要に迫られなくても自分の意思でこれまでの自分も変えることはできるはずです。

失敗しないことは成功とは違います。失敗しない無難なことばかりしては何も学びとることはできません。当たり前を疑ってみることが必要です。

「他人の人生を生きてはいけません」これはアップルコンピュータの創業者スティーブ・ジョブスの言葉です。この言葉を皆さんに贈ります。

この先、誰のものでもない自分だけの大切な人生を、自分の意思で力強く切り開かれることを望みます。

最後にあたり、ここにめでたく皆さんが卒業を迎えることができるのは、日ごろの努力の賜物であるのはもちろんですが、支えていただけただけご家族や関係者のお陰でもあることも伝えておきたいと思えます。その感謝の気持ちを岩に刻む思いでその恩に報いていく決意を、これからの人生において忘れないようお願いします。

以上、皆さんの将来に幸多きことを祈って、はなむけの言葉とします。

令和三年三月二日

岐阜県立国際園芸アカデミー 学長 今西 良共